

平成 29 年 2 月 18 日

奈良 保 育 学 院  
学院長 多中 祥元 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 大原 敏敬

## 学校関係者評価委員会報告

平成 27 年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づき実施した平成 28 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 西山 明彦（奈良市私立幼稚園協会会長、いさがわ幼稚園園長）
- ② 松村 善子（極楽坊保育園園長）
- ③ 大原 敏敬（奈良県私学専修学校連合会副会長、大原和服専門学園理事長）
- ④ 木本 悦子（奈良保育学院三友会会長）
- ⑤ 米田 久美子（香芝市子ども支援課職員、奈良保育学院第 19 期卒業生）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 28 年 6 月 18 日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）  
第 2 回委員会 平成 28 年 11 月 26 日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）  
第 3 回委員会 平成 29 年 2 月 18 日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

## I 重点目標について

### 1 重点目標①について

<p>重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学外実習の事前事後指導、進路及び学年担当教員による適時の学生への関わり、専任全教員の情報共有、様々な教育活動等を通して学生の就職に関する意識の向上を図り、幼稚園教員免許及び保育士資格取得率 100%と関係分野への就職率 100%を目指す。</li> <li>・ 日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格取得率 100%を目指し、コミュニケーション力及び対人関係力の向上を図る。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園就職希望者が今年度増加しているとのことだが、保育士不足は深刻な社会問題であるため、保育所への就職も積極的に検討して欲しい。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園への就職が過半数を超えるということはなく、大半の学生が実習をすべて経験した後に、幼稚園・保育所・施設それぞれの就職希望を確定させていく。入学時点で大方定めていた学生でも、検討し直す場合もある。個別の指導を通して、学生の見解に偏りのないように伝えていきたい。</li> </ul>

### 2 重点目標②について

<p>重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 26 年度に引き続き、学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を開催し、教育課程の改善及び学校運営力の向上を図る。</li> <li>・ 職業実践専門課程認定に向けて必要要件を満たし、申請業務に当たる。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門学校におけるステップアップとして、現時点では、各種学校から専修学校、それから職業実践専門課程の認定という大きな枠組みがある。今後の流れも見据えて専門学校としての取組みを盛り上げていきたい。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 28 年 2 月に、文部科学大臣より職業実践専門課程の認定を受けた。認定校としての意識を常に持ち、今後も実践的な教育を実施していく。</li> </ul>

## Ⅱ 各評価項目について

### 1 教育理念・目的・人材育成像

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校法人白藤学園の建学の精神「敬身・敬学・敬事」に基づき、人格的・知的・情緒的に優れた幼児教育者及び児童福祉従事者の養成を目指す。開講科目の70%以上を演習・実習科目とし、必要な専門的知識と技能を在学期間の2年間で習得する。</li> <li>・ 教育目標を達成するため、少人数制による教育、関係施設との連携を密にした実習指導、学外ホールでの演目発表、地域におけるボランティア活動などを通して、実践的な取り組みを実施している。</li> <li>・ 平成27年度卒業生は、卒業資格100%、幼稚園教諭二種免許状取得率96%、保育士資格取得率95%、両免許資格取得者による関係職就職希望者の就職率100%、ピアヘルパー資格取得率96%であった。いずれも100%を達成させるため、学生・教員ともに意識の向上を図ることが課題として挙げられる。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学院の教育理念は仕事に生きてくるだろう。職場では、自身で考えアイデアを出すことが多くある。授業でもアクティブラーニングを積極的に取り入れて問題解決力を身につけることで離職防止にもつながるだろう。学生の間に考える力を養うことが大切。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開講科目の内70%以上を実習・演習科目として設定しており、学生が自ら考えられるような取組を心掛けている。情報化社会の中で、いかに自分で考えるかが課題であり、工夫を続けていきたい。</li> </ul>

### 2 学校運営

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められており、教職員にも明示している。諸規定の整備・改定も必要に応じて実施している。</li> <li>・ 平成24年に学園創設120周年を迎えたことを機に、中期事業計画として「120周年ビジョン」を策定し、関連事業計画を定めている。</li> <li>・ 運営組織や意思決定機能は、学園運営組織表・校務分掌で定め機能している。少子化や大学・短大志向の強まりによる影響を踏まえると、学校運営に関する対策と対応は喫緊の課題である。</li> <li>・ 教員は、設置基準等の定めるところにより必要人員を配置している。賃金等処遇については、平成26年度から目標管理制度による人事考課を行っている。結果は翌年度の賞与支給に反映させ、将来的には昇級にも反映させる。</li> <li>・ 意思決定システムの確立については、寄附行為・関係規則・学園運営組織表・校務分掌により制度化できている。</li> <li>・ 平成27年度に学園内のLANシステムを構築、全教職員に一人一台PCを設置し、校務の効率化につなげている。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人を評価することは難しく、方法に苦慮すると察するが、人事考課は運営上必要だろう。評価結果を昇給など個人のみ結びつけるのではなく、学校全体としての向上を目指し、ベースアップにも重点を置いて欲しい。</li> </ul>

<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員が自己目標を設定し、管理職面談を通して目標の確認や課題の達成度などを検討、面談後は再評価・再面談を実施する体制を整えている。最終的に、自己評価と管理職の評価を合わせ、他部署と協議・評価を行う。結果は次年度の賞与に反映させている。平成26年度より実施しており、今後も継続予定。</li> </ul>
----------------	--

### 3 教育活動

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムは文部科学省及び厚生労働省の通知に基づき目標達成に向けて体系的に編成されており、目標とする免許資格取得を支援する教育内容となっている。また、成績評価・単位認定の基準は明確であり、学則およびシラバスに明記している。学生指導は、学年担当制によるきめ細かな指導を実施している。</li> <li>教員の専門性レベルは監督官庁の資格審査に合格しており、育成目標に向けた授業実施可能な教員を確保している。更なる専門性、授業力、校務執行力向上のため、学会・研究会・研修会への参加や研究紀要の執筆等を奨励している。</li> <li>授業を客観的に評価・分析・改善することを目的として、学生による授業評価アンケートを実施している。アンケートの集計結果は、各教科担当教員へ報告し、授業改善への活用を促している。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者は、子どもと一緒に環境を整えていくことが大切で、時間はかかっても子どもと共に考えることで、保育者も子どもとお互いに成長につながる。社会で働く上で重要となる応用力を身につけてもらいたい。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生が常に目標を持って活動に臨めるように、通常の授業や学外実習の他、たとえば自治会行事や表現活動発表会など、年間の行事を多く設定している。学生が総合的な力を発揮できるような取組みと指導を実施していきたい。</li> </ul>

### 4 学修成果

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度卒業生は、全員が卒業資格を有し、幼稚園教諭二種免許状取得率96%、保育士資格取得率95%、日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格合格率96%であった。免許資格取得率については引き続き向上すべく、学生の個性に合わせた教育や指導を継続して実施していく。</li> <li>平成27年度両免許資格取得者の内、関係職への就職希望者の就職率は100%であった。進路担当者を中心として前年度卒業生の全就職先を訪問し、卒業生の様子の把握及び就職先との連携を図っている。</li> <li>就職ガイダンス講師として卒業生を招聘し、身近なモデルを通して将来像を明確化させるなど卒業生との機会を設けている。引き続き、在学時から関係職への明確なイメージを持ち、就職に関する意識の向上とリアリティギャップを埋める取組みを実施していく。</li> </ul>
-----------	---

委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後のフォローは大切であり、ぜひ継続して欲しい。卒業生から在学生への話は、実習前に設けることで実習や将来へのリアリティギャップを埋めるために有効だろう。実習時または後に、自信をもって保育職に就けるという感覚へとつながるよう支援をお願いしたい。</li> <li>教員から聞くことと身近な先輩から聞くことは受け止め方が異なる。それぞれの役割に合わせて、効果的に活かしていくと良いだろう。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習はほとんどの学生にとって最初に出会う現場であり、就職後や実習先におけるリアリティショックを避けるためにも、在学中に実際の現場を知る機会を多く設けていきたい。</li> </ul>

## 5 学生支援

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年担当制をとり、学業・生活・就職面において個々の学生と密に関わり支援するとともに、教員間で情報を共有し、連携体制を整えている。学生との個別面談の他、必要に応じて保護者にも連絡・面談を実施している。また、保護者会も組織しており、定期的に総会及び役員会を開催している。</li> <li>学費に対する支援体制は、奨学金や学費分納など個別に対応している。奨学金制度は日本学生支援機構を利用しており、平成 27 年度入学者の貸与率は 25% である。</li> <li>学生の健康管理に関しては、厚生担当教員を配置し、養護教員と連携して取り組んでいる。また、学園共有の教育相談室には教育相談員が常時在室しており、専門のカウンセラーも週 1 回来校している。</li> <li>クラブ活動は学生の自主性に任せており、行事における発表など、積極的な活動を奨励している。</li> <li>同窓会を組織しており、定期的に総会や会合を開催している。また、進路担当者を中心に卒業生の就職先訪問や転職希望者への情報提供や面談を実施しており、卒業後の支援体制も整えている。卒業後の後追い調査を実施する等、より一層の進路保障対策を今後検討していく。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>履歴書は最初の窓口となるが、近年の学生は実際の人物と異なる印象を持つことが多い。ぜひ学院では、本人そのままを提示するよう助言して欲しい。</li> <li>一般就職希望者について、入学時の思いが実習後に揺れ動くのか。実習でつまづき保育職への希望を捨てるのではなく、保育士不足の現状では、まずは実習が楽しい経験となるように指導することで足がかりとしてもらいたい。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>証明写真は、入学式またはオリエンテーション時に制服着用にて一斉に撮影している。髪型や化粧等の注意は事前に促しており、今後も継続する。</li> <li>一般就職希望者は、いずれも免許資格の取得及び保育職への就職を断念すると自身で判断しており、個別面談などを重ねて教員が密に関わり再考も含めてフォローする。最終的に一般就職を選択した学生は、在学中に様々な科目を通して学ぶことで、自分の中の保育職とのイメージの違いや自分の適性を活かした他の仕事について考え、決定していくのだと思う。実習前後の必要なフォローは引き続き実施し、学生を育てていきたい。</li> </ul>

## 6 教育環境

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備はいずれの建物も耐震基準を満たしており、不具合がみられる場合は適宜メンテナンスを実施している。セキュリティ管理は、監視カメラの設置、機械警備の契約、通用口の施錠、侵入防止扉の設置など、万全を期している。学生の保険についても見直し、平成 28 年度より課外ボランティア活動にも対応した保険に加入すべく準備を進めている。引き続き、安全管理に関する意識向上に努め、危険及び事故防止を徹底していく。</li> <li>大規模地震に対応した消防防災訓練実施マニュアルを学園として作成しており、学園防災避難訓練を定期的実施し、危険物等の管理も徹底している。防災備蓄については、平成 28 年度より定期的に補充・管理していく方針であり、災害への備えを万全にすべく準備を進めている。</li> <li>学外実習に関しては、学外の関係機関と連携して十分な教育体制を整備しており、実習事前事後指導を徹底し、指導にあたっている。</li> <li>インターンシップや海外研修は、希望者がいる場合に情報を提供できるように資料を保管している。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との関わりについて、避難場所として場を提供しているのか。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次避難場所として指定されており、緊急時の必要に応じて場所や物資などを提供・対応していく。</li> </ul>

## 7 学生募集と受入れ

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生募集活動は適正に行われており、当該年度の入学者、卒業者、就職希望者数、就職者数は指導監督庁に報告している。学校案内は志願者や保護者の立場を考慮した内容となっており、問い合わせや相談への対応は、専任教員全員が可能となるような体制を整えている。</li> <li>入学選考は公平性を保つために全教員が関わり、筆記試験及び面接の結果を踏まえて協議により判定している。入学選考に関する情報と推移は正確に把握しており、平成 27 年度は前年度と比較して資料請求件数・オープンキャンパス参加者数・受験者数が増加した。年度による増減は見込まれるため、少子化や大学・短大志向の影響も考慮し、高校訪問のあり方や企業主催の進路相談会等への参加については今後も検討していく。</li> <li>学納金は、他の大学・短期大学・専門学校と比べて低額であり、学生・保護者の大きな負担感はないものと推察される。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の様子は、学校の教育や指導する教員への評価につながる。専門学校に進学する学生の目的意識の高さを感じてもらうことは、大きな進学判断材料となるだろう。</li> <li>県内高校進路指導部教員対象の専門学校見学会（奈良県専修学校各種学校連合会主催。12月8日実施）では、表現活動発表会リハーサル風景を見学してもらおうことになっているが、引き続き積極的な発信に努めてもらいたい。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生が普段の学びを活かして総合的な力を発揮できるような機会を今後も設け、積極的に情報発信していきたい。</li> </ul>

## 8 財 務

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中長期的に財務基盤は必ずしも安定していると言えない。学園全体の財政基盤を確立させるため、引き続き学生・生徒・園児数の必要定数を確保していく必要がある。</li> <li>・ 年度予算は、教育の充実と費用効果等を勘案し、適切に編成および執行しており、会計監査人及び監事の監査は、定期的かつ適切に行われている。</li> <li>・ 財務状況の公開については、平成 27 年度より公式 web サイトにて公開しており、その他必要に応じて開示している。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業実践専門課程認定校としての情報公開の義務に則り適切に公開していると判断される。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、適切な情報公開に努めていきたい。</li> </ul>

## 9 法令等の遵守

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法令や設置基準は遵守している。</li> <li>・ 学校が保有する個人情報に関する保護対策及び教職員への周知は徹底している。学生に対しては、近年、SNS への書き込みなどメディア機器を通じた情報流出が社会全体として問題視されていることも踏まえ、特に学外関係機関で知り得た情報を意図の有無に関わらず流出させた場合には懲戒処分に値する旨を学生便覧へ追記し、その重大さと守秘義務を教授している。</li> <li>・ 平成 26 年度より学園共通の職場におけるハラスメント防止に関する指針を策定し、相談マニュアルを作成した。</li> <li>・ 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めている。結果については、平成 26 年度より学校関係者評価委員会にて評価を実施し、平成 27 年度より評価結果概要及び報告書を公式 web サイト上で公開している。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習園としては、守秘義務に関する指導を今後も継続してもらいたい。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、守秘義務の指導徹底を行い、学生指導に努めていきたい。</li> </ul>

## 10 社会貢献・地域貢献

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会および地域貢献活動の一環として、平成 26 年度より、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした保育士資格取得制度（特例教科目制度）を開講している。また、奈良教育大学と連携して、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした免許状更新講習会を実施している。いずれも定数を確保しており、平成 28 年度も引き続き実施していく。</li> <li>・ 子育て支援センターを含む地域の催しにおける学生の参加や出張公演等、ボランティア活動の積極的な参加を促進・奨励している。活動の様子は公式 web サイトや学園新聞等を通じて広く公開している。学校は、学生の教育だけでなく、社会への情報発信や地域活動の拠点としての役割を担っていることを再確認し、今後も広く社会に貢献した活動に取り組んでいく。</li> </ul>
----	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学園全体として環境問題への啓蒙活動を実施しており、学園周りの花壇の整備や空調の温度制限を実施している。引き続き、学生・教員への呼びかけ及び参加を促していく。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報は入るが経験は少ない時代であるため、経験が少ない親をどう育てていくかが現場の課題でもある。</li> <li>・ 先日の奈良県専修学校各種学校連合会による進学相談会では、学院の学生によるプレゼンテーションが高校進路指導部教員から好評を得た。専門学校進学学生の目標意識の高さを感じてもらえただろう。学内における取り組みを社会に発信していくことは大切であり、学生が表現できる多くの機会を設けると良いだろう。社会とのつながりを積極的に持ち、専門学校としての取り組みや良さをぜひアピールして欲しい。</li> </ul>
学校側の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年12月に実施している表現活動発表会は、学生の学修成果を地域に向けて発信する良い機会となっている。舞台は総合芸術であり様々な力を要するので、日頃の学びを感じてもらえるだろう。継続して取り組んでいきたい。</li> </ul>